

科目名：歯科保健指導論Ⅰ		必	2 単位 (90 時間)
(Oral Health Guidance TheoryⅠ)			
履修年次/時期：1 年次 後期		授業形態：講義・演習	
主担当教員：片岡あい子（実務経験 歯科衛生士 4 年：実務経験から専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力が身につけられるよう授業を行っていく）			
担当教員：伊ヶ崎理佳、井出桃			
学修目的	多様な生活習慣、生活環境、健康状態にある人々に、専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う。 CP1, 2, 3, 4, 5 に関連する。 科目 No.S1C11H24		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3. 口腔の健康支援を通して、全身の健康を守る高度な専門的能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2) 優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
	◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP		
到達目標	①歯科保健指導の意義と目標を説明できる。 ②歯科衛生過程の進め方を理解する。 ③歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理を理解する。 医療面接の目的を理解する。 口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる。 ④歯科衛生介入のための歯科保健指導を理解する。 口腔衛生管理の意義・目的を理解する。 歯ブラシの種類と特徴を説明できる。 各種ブラッシング方法を実施できる。 歯磨剤と洗口剤について説明できる。 フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法を説明できる。 補助的清掃用具の種類と特徴、適応および使用方法を理解する。 ⑤口腔の健康維持のための基本的知識や技術を修得し、対象者ごとの口腔に応用できるスキルを身に付ける。 ⑥コミュニケーションの概要を理解し、歯科保健指導を行う上で必要な対応法を修得する。		
授業概要	多様な生活習慣、生活環境、健康状態にある人々に、口腔の健康維持・増進についての専門的立場から助言と支援を行うために必要な能力を養う。		

評価方法	本試験（80%）、実習点（課題提出・小テスト20%）の総合評価 ループリックを使用する。 試験に対するフィードバックは掲示で行う。
予習・ 復習時間	【予習】0.7 時間 【復習】0.7 時間
教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
参考書	『歯科衛生学総論』 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 『保健生態学』 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 『口腔衛生学』 荒川浩久ほか 学研書院
オフィス- 連絡先	片岡あい子 月～金 16:00～17:00 3号館2階研究室 kataoka@kdu.ac.jp 不在時はメールでお願いします。 伊ヶ崎理佳 火～金 16:00～17:00 3号館2階研究室 ikazaki@kdu.ac.jp 不在時はメールでお願いします。 井出桃 月～金 16:00～17:00 3号館2階研究室 ide@kdu.ac.jp 不在時はメールでお願いします。

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1・2	歯科保健指導の概要① ① 歯科保健指導の意義と目的を説明できる。 ② 歯科保健指導の内容を説明できる。 ③ 健康の概念を説明できる。	〔予習〕 P2～13 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める P2～13 を読んでおくこと 〔キーワード〕 歯科保健指導の定義、 個人対象、集団対象、 プライマリーヘルスケア、 ヘルスプロモーション、 健康増進施策、行動変容	講義 ○伊ヶ崎
3・4	口腔衛生管理 <口腔清掃指導法①> ① ブラークコントロールの意義を理解し、口腔衛生管理に関する清掃用具の特徴と清掃方法を説明できる。 ② 歯磨剤、洗口剤、保湿剤について説明できる。	〔予習〕 P247～251、268～278、 286～289 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める 〔キーワード〕 歯ブラシ、 ブラッシング法、歯磨剤、洗口剤 保湿剤	講義 ・演習 ○伊ヶ崎
5・6	患者体験 ① 歯科衛生介入の重要性を理解する。	〔キーワード〕 行動変容、自己効力感	演習 ○片岡 井出
7・8	歯科保健指導の概要② ① 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。 ② 歯科衛生過程の基本的な考え方を説明できる。	〔予習〕 P88～98、100～120 を 読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める 〔キーワード〕 行動変容、情報収集、 問題の明確化、計画立案、実施、評価、 業務記録	講義 ○伊ヶ崎
9・10	口腔衛生管理 <口腔清掃指導法②> ① 各種清掃用具について説明できる。 ② デンタルフロス、歯間ブラシの使用法を説明できる。	〔予習〕 P278～286 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を	講義 ・演習 ○井出 伊ヶ崎

		深める 〔キーワード〕 デンタルフロス、歯間ブラシ、電動歯ブラシ、音波歯ブラシ、超音波歯ブラシ、歯間部清掃用具、舌・粘膜の清掃用具	片岡
11・12	対象者の把握・記録法① ①歯科衛生アセスメントができる。 ②医療面接の目的を説明できる。 ③口腔内の観察項目、検査方法を説明できる。	〔予習〕 P108～110、121～128、P133～151 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める 〔キーワード〕 情報収集・情報整理、医療面接、口腔内の観察	講義 ・演習 ○片岡 伊ヶ崎 井出
13・14	対象者の把握・記録法② ①歯垢染色剤について説明できる。 ②口腔清掃状態の把握および評価ができる。	〔予習〕 158～163、139～142 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める 〔キーワード〕 歯垢染色剤、ブラーク・歯石の指数	講義 ・演習 ○伊ヶ崎 井出 片岡
15・16	口腔衛生管理 <口腔清掃指導法③> ①口腔清掃状態の評価ができる。 ②ブラッシング方法の選択ができる。	〔予習〕 P268～286 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める 〔キーワード〕 歯垢染色剤、歯ブラシ・ブラッシング法・歯間部清掃用具の選択と使用法	講義 ・演習 ○井出 伊ヶ崎 片岡
17・18	歯科保健指導の対応法・患者体験 ①積極的傾聴について理解できる。 ②歯科衛生過程の重要性を理解する。	〔予習〕 P121～127 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める 〔キーワード〕 傾聴法、医療面接 歯科衛生アセスメント	演習 ○井出 伊ヶ崎 片岡
19・20	対象者の把握・記録法③ ①対象者の保健行動を把握できる。 ②口腔内の観察と評価ができる。 ③口腔清掃状態を把握できる。	〔予習〕 対象者の把握・記録法①②の内容を確認しておくこと 〔復習〕	講義 ・演習 ○井出 伊ヶ崎

		授業内容について整理し、理解を深める 〔キーワード〕 情報収集・情報処理、 口腔内の観察、ブラーク・歯石の指数	片岡
21・22	対象者の把握・記録法④ ①対象者の保健行動を把握できる。 ②口腔内の観察と評価ができる。 ③口腔清掃状態を把握できる。 ④口腔清掃指導ができる。	〔予習〕 対象者の把握・記録法①～③までの 内容を復習しておくこと 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を 深める 〔キーワード〕 情報収集・情報処理、 口腔内の観察、ブラーク・歯石の指数	演習 ○片岡 井出 伊ヶ崎
23・24	歯科衛生過程① ①歯科衛生過程の進め方を説明できる。 ②歯科衛生アセスメントについて説明できる。 ③歯科衛生診断について説明できる。	〔予習〕 P100～119 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について配布プリントを 整理し、理解を深める 〔キーワード〕 歯科衛生アセスメ ント、歯科衛生診断	講義 ・演習 ○片岡 井出 伊ヶ崎
25・26	歯科衛生過程② ①歯科衛生計画立案について説明できる ②歯科衛生介入について説明できる。 ③歯科衛生過程における書面化（記録）について説明 できる。	〔予習〕 P100～119 を読んでおくこと 〔復習〕 授業内容について配布プリントを 整理し、理解を深める 〔キーワード〕 歯科衛生計画立案、 歯科衛生介入	講義 ・演習 ○片岡 井出 伊ヶ崎
27・28	振り返り	歯科保健指導論Ⅰのノート・配布資料 を整理する	講義 ・演習 ○片岡 井出 伊ヶ崎